

共通科目		周産期医学特論 Advanced Study & Research for perinatal medicine		開 講	毎年・ 隔年
単位		科目責任者	梁 栄治 教授（産婦）	区 分	選択
1 単位		授業形態	講義・演習		

概要	ハイリスク妊娠における母体の変化と胎児・新生児への影響を、出産の前後を通じて理論的・連続的に捉え、統合的理解を深めるとともに、母児への対応における臨床の実践に連結させることを目標とする。				
到達目標	妊娠経過における母体変化を理解しその異常と対応方法を修得する。 胎児の発育や生理的成熟過程を理解し、説明できる。 母体や胎児の異常を診断できる。それらに臨床的に対応できる能力を身につける。				
事前事後学習	「産婦人科研修の必修知識(2016-2018)」の該当項目を事前に読了しておくこと。 巻末の小テストをあらかじめ解いて、説明できるようにしておくこと。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				
評価方法	講義・演習の課題(10%)、演習における報告発表(10%)、discussion内容(40%)、受講時の質疑応答の内容(40%)により評価する。但し、理解不十分と判断された場合にはレポート提出を要求する。				
教科書・参考書	「産婦人科研修の必修知識(2020)」日本産科婦人科学会 編集・発行（病棟に常備）				
履修上の注意事項	臨床上の急な対応が必要で受講できない時には連絡すること。適宜、日時の変更を相談する。 報告発表や質疑応答に対し、講義・実習・演習の中で、解説等のフィードバックを行う。 学位論文において産婦人科学の中でも周産期関連の領域を専門として選択した場合は、この科目の受講が必須である。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。 演習の時間帯は変更することがあるので、事前に確認すること。				
オフィスアワー	梁 栄治 yonchi@med.teikyo-u.ac.jp 木戸浩一郎 kidok@med.teikyo-u.ac.jp 笹森 幸文 ysasa@med.teikyo-u.ac.jp 具体的にはメールで相談				

No.	月 日	時間	講義タイトル	担当者	備考
1	7/15(木)	18:20-19:50	ハイリスク妊娠の病態生理	木戸浩一郎 准教授（産婦）	大学棟本館 1階105教室
2	7/16(金)	18:20-19:50	胎児と子宮内環境の評価法	梁 栄治 教授（産婦）	〃
3	7/19(月)	18:20-19:50	胎児診断における超音波医学の理論と実践	梁 栄治 教授（産婦）	〃
4	7/20(火)	18:20-19:50	出産前診断の原理と実践	木戸浩一郎 准教授（産婦）	〃
5	7/21(水)	18:20-19:50	①妊娠高血圧症候群の病態と対応 ②母子感染	笹森幸文 病院准教授（医教）	〃
6	7/26(月)	18:20-19:50	新生児の生理的適応過程の理論と実際	伊藤直樹 講師（小児）	〃
7	7/27(火)	18:20-19:50	胎児の生理的発達過程とその異常	木戸浩一郎 准教授（産婦）	〃
8	7/28(水)	18:20-19:50	多胎妊娠の病態と対応	笹森幸文 病院准教授（医教）	〃
その他の演習・セミナー等		・産婦人科症例演習（産婦人科臨床検討会）月曜日 16:00-17:00 ・周産期症例演習（周産期ミーティング）金曜日 15:30-17:00 ・産科超音波診断実習 13:30-16:00			

※講義日程の変更・追加の連絡等がある場合、登録されているメールアドレスに連絡します。